



患者の皆さまへ 「食物アレルギーの発症と インタール細粒の正しい使い方」・綴り

この綴りはインタール細粒の正しい使い方を患者の皆さまへ
徹底させていただくために用意したものです。

十分な効果を得るために先生から、
直接患者の皆さまへおわたください。

食物アレルギー治療剤

インタール[®]細粒10%

クロモグリク酸ナトリウム細粒 ●薬価基準収載

★「効能又は効果」「用法及び用量」「禁忌を含む使用上の注意」等については、
製品添付文書をご覧ください。

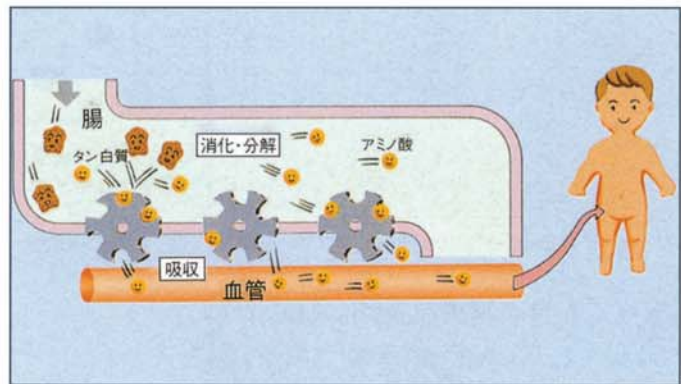


食物の消化・吸収と 食物アレルギーの発症

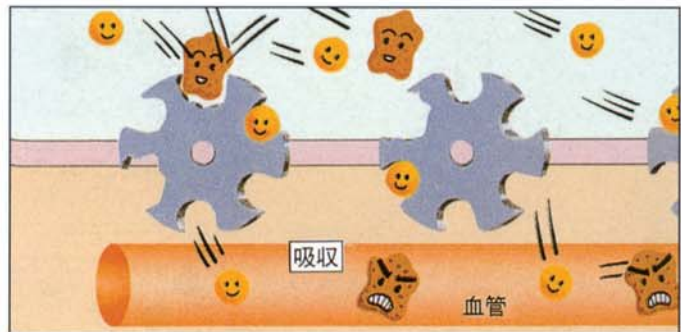
監修：同愛記念病院 元副院長・顧問 馬場 實

食物は消化管（胃や腸）の中で消化・分解され、栄養素として腸管から吸収されます。では、食物がなぜアレルギーを起こすのか、くわしく見てみましょう。

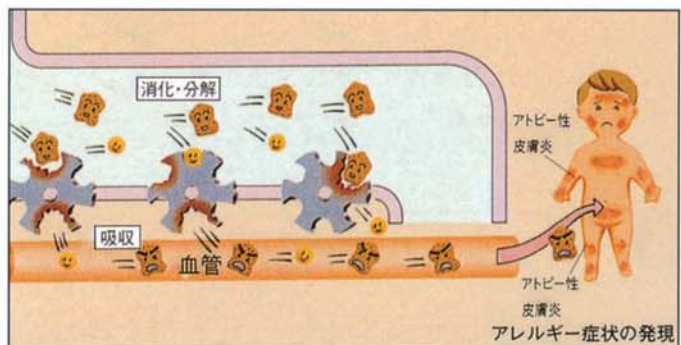
1 食物アレルギーを起こす主役である「タンパク質」は、消化管内のさまざまな消化酵素のはたらきで、分子量が小さな、アレルギーを起こす力のない「アミノ酸」にまで分解され、腸管から吸収されます。



2 この時、一部の消化されないタンパク質は吸収されずに残り、アミノ酸だけが栄養素として全身に運ばれます。



3 しかし、幼小児やアレルギー体質の子どもの腸は、未発達であったり、消化力が不十分なため、完全に消化・分解されていないタンパク質までもが吸収されやすい状態になっています。



4 こうして侵入した「タンパク質」が全身へと運ばれ、アトピー性皮膚炎などのアレルギーを起こす原因になるのです。

※（絵のなかの水車は食物が腸管から吸収されていくくみを表しています）

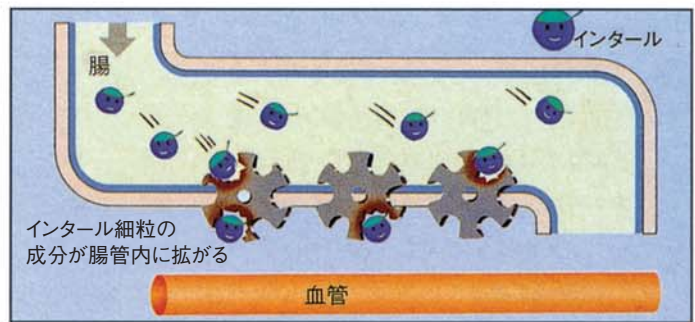


インタール細粒のはたらきと正しい使い方

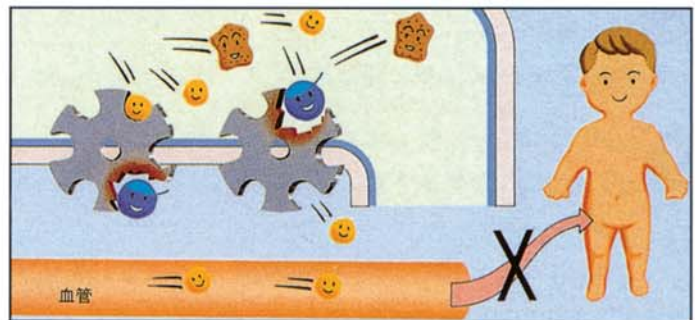
監修：同愛記念病院 元副院長・顧問 馬場 實

インタール細粒は、アレルギーの原因になる食物成分（タンパク質）の腸管からの侵入を防ぐお薬です。では、インタール細粒が、腸管の中でどのようにはたらくのか見てみましょう。

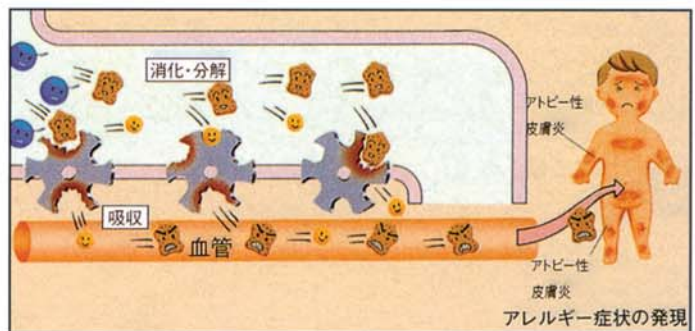
- 1 インタール細粒は、食事の15～30分前に服用することで、作用を発揮します。



- 2 インタール細粒が腸管に直接はたらくて、アレルギーの原因になるタンパク質の侵入をくい止めるからです。



- 3 食後にインタール細粒を服用しても、すでに消化管内では食物成分の消化・吸収がはじまっており、インタール細粒は本来の作用を発揮できません。また、食事の直前に服用した場合でも、腸管に十分作用できず、効果が期待できません。



- 4 インタール細粒は、少量の水または温湯で溶かし、必ず**毎食前15～30分前**に服用させてください。